

集学的治療で効果が得られたスキルス胃癌、骨髄癌腫症の1例

戸畑共立病院がん治療センター

川崎玲、大田真、北村晶子、垣下ひかる、樋口優子
森岡丈明、鞆田義士、成定宏之、今田肇

症例は74歳男性。2011年、前縦隔腫瘍術後に胸腺癌、胸膜播種の診断を受け、CBDCA/S-1を4コース施行。2013年2月、胸腺癌再発、スキルス胃癌(stageIV)、骨髄癌腫症と診断され、当院にて治療開始。温熱療法と高気圧酸素治療を併用し、化学療法はPACを12コース施行後、PDとなりCPT-11へと変更し6コース施行。ハイパーサーミアは胃に計34回、平均出力 1417.6 ± 72.7 W、治療時間 45.9 ± 5.0 分で施行。

スキルス胃癌は進行が早く制御困難であることに加え、骨髄癌腫症を発症するとさらに予後不良であり生存期間は急激に低下する。本症例は高出力でのハイパーサーミアを併用した集学的治療により、局所制御と生命予後に寄与したと考えられた。